

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700059		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホームほほえみ 1号館		
所在地	岩見沢市8条西16丁目2番地1		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	令和5年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_U22_kani=true&ligvosvoCd=0195700059-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和5年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街にあり、現在近くに小学校有り緊急時の避難場所が近くにございます。又、地域町内会の婦人部会の行事にも参加させていただき地域の一人として交流を深めております。事業所として特に力を入れているところは、利用者は長い人生経験の中で培われた知識や技の「力」を最大限に生かし、本人の思いを尊重して、その人らしい生活をマネジメントするよう心がけ支援している。出来る事はさせていただき、出来ない事は介護員がお手伝いしており、利用者さんと共同作業で日々の生活を支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地中心部の閑静な住宅地に位置する軽量鉄骨造2階建2ユニットの事業所で、開設14年目を迎えています。開設から地域との相互交流に努め、感染症対策で自粛を余儀なくしていましたが、自然体での住民との付き合いが行われ、今年の子供神輿が来て賑わいました。春から秋にかけて毎月遠方への外出支援に取り組み、利用者に喜んでもらえる場所へ行き、その先々の名物や美味しいものを味わうなど、五感刺激満載に楽しんでいます。食の支援にも優れており、行事食にも多彩な変化をつけ食卓を演出したり、寿司職人や蕎麦打ち同好会の方が利用者の目の前で腕を振るって提供し、食べたい意欲やワクワク感を誘っています。また、体操の種類を工夫したり、数々の楽しみ事を職員が丁寧に整え一緒に楽しむ事で利用者の生活を盛り上げています。月ミーティングでのカンファレンスや業務検討は、利用者の視点に立ち望ましいあり方となる意見討議がなされ、本人の訴えや姿を受け止めたケアの姿勢で支援に当たっています。家族へはこもれ陽新聞と共に個人便りを送付し暮らしの現状を発信しています。職員個々のタイミングで学べる動画研修や産業医によるメンタルヘルスクアを導入するなど、職員に寄り添った法人のバックアップも特徴です。職員は利用者一人ひとり自分のペースで楽しく生活できるように関わっていきたくて述べています。ありのままのそして笑顔のある暮らしを事業所全体で支えている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどつかんでいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3 たまにある			<input type="radio"/>	3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない			<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない			<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引き継ぎ後に、理念をスタッフで唱和し1日の開始としている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ運営理念を重要事項説明書、パンフレットに明示し、事業所内要所へ掲示しています。朝の引き継ぎ後に唱和し、支援に臨んでいます。	職員一人ひとりが理念を意識した介護支援となっているかを月ミーティング等で振り返りを行う事としていますので、事例を挙げて検証するなど事業所全体での共有に期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は、コロナの影響もあり交流を控えているが、以前は町内会の茶話会に参加していた。	町内会に加入し、相互交流は自粛期間が続きましたが、今年、久しぶりに町内子ども神輿が事業所に来て賑わいました。町内資源回収への協力や地域住民からさくらんぼや栗のお裾分けがあります。地元の仕出店から弁当等の取り寄せの際には、利用者の食形態に沿った協力が得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々との交流は現在控えておりますが(コロナ)、継続的な交流をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	以前は町内会・家族も参加し年に6回行事も含め参加していた。ヒヤリハット・事故報告もして話し合っていた。	運営推進会議は、市保健推進部担当者と地域包括支援センター職員が出席し開催しています。利用者状況、サービス提供と活動状況、事故・ヒヤリハット、研修状況等を報告し協議しています。来年度からは、感染症流行前と同様に町内会関係者や家族の参加を得て開催する事としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市職員、包括センターのセンター長が参加され報告相談している。	市の担当部署とは、実地指導や各種届出、制度上の案件で意見や指導を仰ぎ、適正な運営の維持、向上となるよう協働関係を築いています。施設長が市の介護保険事業計画推進委員を務めており、高齢福祉推進に協力しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催同法人GHと事例を用いて話し合いをしている。	「ほほえみにおける身体拘束対策に関する指針」を定め、身体拘束廃止委員会を系列グループホームと合同にて定期に開催しています。通常の検証以外に、事故報告やヒヤリハットを含めて情報を共有し意見交換の元に対策を協議するなどしています。これらに係る内部研修では、身体拘束・虐待廃止や指針について等を学んでいます。夜間帯のみ玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会の参加(外部)出来ない為、月1回のミーティング時や常に介護上での対応等を話し合っている。GHぬくもりと合同で身体拘束防止委員会と研修会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ、管理者、スタッフが順番に研修を受けている。現在対象者は居ませんが、今後対象者が居れば受入いく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族本人と面談し口頭及び文章で説明している。分からない所があれば理解できるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の話や討議は傾聴し、ご家族には計画見直し時に意見、要望の用紙を入れている。1、2F両方に意見を入れるBOX用意している。	利用者からの自宅に荷物を取りに行きたい、家の周りが心配との訴えには、本人が安心できる言葉や家族に協力を得るなどして対応しています。家族からは、介護計画作成時に意見・要望の記入シートの送付や電話や面会時など接する機会に意見を出してもらるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に職員に意見や提案をあげてもらい、ケアに反映している。	年1回、施設長が職員全員と面談を行い、また、同じく年1回、法人産業医によるメンタルヘルスクーを実施するなど職員への健康保健対策を講じています。ユニット単位の月ミーティングでは業務・支援について職員から積極的に意見や提案が出され、一緒に話し合い調整しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法によって労働条件を整えている。また管理者や職員の声に耳を傾け働く意欲を持ち、気分転換が図られるよう休憩時間を設けている。資格取得を支援し、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は現在控えておりますが、岩見沢市内のGHとの情報交換でイロイロと話し合い報告を全職員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の他のグループホームの方々と、コロナの情報交換や対策などをメールや電話などで話し合いをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込時に来れる方は本人も同行して頂き、要望や困っている事を傾聴し信頼関係に努める様にする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の時に今迄の生活歴や生活状況を聞き、不安のない様に要望に添えるようにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には施設内見学して頂き面談しご家族が望んでいる事をお聞きし介護計画をかんがえる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えに耳を傾け、一緒に生活する事で分かち合い協力しあいながら生活出来る様に努める。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子をお便りや訪問時に伝えていきます。家族と職員が情報の共有を図り両者様を支えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応での通院の際に自宅への帰宅支援を行っている。地域の子供神輿が来所した際に応援し地域支援している。	面会を再開し、利用者と家族が対面にて過ごせるようになりました。家族との通院同行も貴重な時間となっています。自宅への一時帰宅や宿泊、一緒に外食をする利用者もいます。家族が本人の好きな花の本を届けてくれたり、信教の知人が馴染んでいる読物の配布に来るなどしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の様子を毎月のお便りや訪問時プラン会議前につたえている。情報の共有を図れる様に協力している。家族と職員が協力し合い、本人を支えられるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設病院に転居する際は当ホームでの生活状況や介護添書で詳しく資料にして伝え退所ごも相談があれば応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの際に本人の考えや思いを傾聴し希望や意向を職員全員で共有し支援している。	利用者がどうしたいかを尋ねることを基本に、日頃の接する中で希望している事や思いを把握するようにしています。難しい場合は、以前の個人記録を見て推測したり、いくつかの選択肢を提示して様子を伺い、可能な限り本人本位となるよう検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人家族から生活歴を確認しています。入居後の支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当日の体調や気分によって本人の意思をできるだけ尊重し、したい事・できる事をして頂く。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の状態を見ながら家族や本人に要望を計画見直し時に聞き、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。	月ミーティングで利用者全員のカンファレンスを実施し、職員意見を反映させモニタリングしています。アセスメント要約表にて新たな計画に向けた内容を整理し、本人、家族の希望や意向も盛り込み、現状に即した介護計画を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変があれば、細かく個人記録に記入し申し送りノートや引継ぎでスタッフ全員に伝える様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて介護タクシーを利用して病院に受診しています。その他急な時があればスタッフが車で送迎しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの行事の時は、地域のボランティアの方にお話し余興を楽しんで頂き、町内会の方ご家族にも参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に現在通っている医療機関の確認を行い、家族対応して頂いているが、困難な場合は受診対応している。	これまでの医療機関への受診が可能です。協力医療機関の内科の隔週の往診、月1回と必要時の歯科の訪問診療、週1回の訪問看護の体制があります。協力医療機関以外の内科や専門他科受診は家族対応が基本です。医療記録には詳細な情報が記載され、適切な健康管理や医療支援に生かされています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や体調の変化があれば見逃さず、訪問看護師に報告し必要時、かかり付医指定病院に受診して頂いている。(現在訪問受診を受けている。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書、支援経過を文書で提供し、ご家族や病院とも情報交換し相談している。入院時も面会に行き状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時の面談、契約時に本人ご家族に重度化になった時の事など説明しているが、利用者家族の希望に寄り添い出来る限り介護していこうと思っている。	利用契約時に「重度化した場合における指針」を説明し同意を得ています。現在、看取りは行っていませんが、対応できる範囲内のギリギリまで支援しています。事業所職員が医師の見方なども考慮し、家族と話し合いを持ち、今後の方針を定めています。特別養護老人ホームへの移行支援の際も家族の希望に添い対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケースバイケースで管理者及びケアマネに連絡し判断を仰ぎ対応し救急車を呼ぶ。全員が対応できるように周知している。月1回のミーティングで必要時勉強会を行っている。AEDも設置しており救命救急講習も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は自主避難訓練ですが、継続的な避難誘導訓練を行い利用者様の安全に努めている。	令和4年11月と今年6月に地震・火災・夜間想定 の避難訓練を消防署の協力を得て実施しました。水害時の垂直避難訓練も行っています。地域協力者、備蓄品を確保しています。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定中です。	指定収容避難所で避難生活を送る場合の想定される課題等の抽出について、運営推進会議で協議、検討する意向ですので、その実施に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活全般にて個人情報の保護や尊重した声掛けを行う。	日常的には、引き継ぎの際に利用者の訴えに対する応答の仕方等について適切な言葉や方針を共有し本人の混乱防止に努め、まずは受け入れて提案する返答を心がけています。職員全員が接遇や虐待など多岐にわたる内容のオンライン動画研修に取り組んでいます。	月ミーティングにおいても接遇に留意する事を発信しています。職員個々のメディア研修の他に、現実に似せた場面で役割を模範的に演じるロールプレイング学習も新たな気づきを得られるものと考えられますので取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者様の要望希望に耳を傾け実現できる事は叶うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の流れは有るが個人のペースに合わせ無理強いせず、その人に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧する方はして頂き、髪の流れがある方は直したり、ヒゲを剃ったり清潔でいられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者好みなど傾聴し献立を作成し下膳やテーブル拭き等出来範囲の中で自立支援を行う。	全職員が献立表を作成し、地元から届いた生鮮食品を使用し調理がなされています。誕生会の生寿司の取り寄せ、敬老会は仕出し弁当、節句やその他の行事食も多彩なメニューで提供しています。飲食店での外食や蕎麦打ち、寿司職人を招くなど、五感刺激のある食事となるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事は記録し水分が少ない方には促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所に行っていただき利用者様に合わせて声掛け見守り介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄のタイミングを把握し、その時以外も声掛けや表情などに目配りを行い対応している。	排泄状況は総合的バイタル表に便の性状等も記し、状態像を確認しています。排泄が自立している利用者への排便状況は接遇に気をつけ確認しています。尿便意を失念している利用者では一定時間の声掛けや様子を鑑みつつトイレ誘導し、ベッド上での交換も対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方には牛乳やヨーグルト等を提供し水分を促す毎朝ラジオ体操、手足の運動歩行運動を行ない便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	3日に1度のペースで入浴実施、その日の気分が入浴を拒否される場面も見受けられるか、声掛けを工夫する事や対応する職員を変更するなどの支援を行っている。	利用者のADLに配慮し、2方向介護型浴槽を設置しています。介助にても湯船に浸かることが難しい場合は足の温浴や掛け湯をしつつシャワー浴で対応しています。音楽をかけたり、入浴の声掛けから浴後のドライヤーまで同じ職員が対応するなど、安心して寛げる入浴となるよう対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて体調を見てレクなど参加して頂いています。眠れない方には話を傾聴して安眠出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者の服薬を把握できる様ファイルがあり、確認しながらしています。服薬はスタッフ2人で再確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合ったレクレーションをして頂き、夏は散歩や外出外食しています。カラオケができる方はいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に配慮しながら近隣周辺を散歩し花壇の花を見学したり4月～10月は、月に1回程度ドライブで遠出することなど行っている。	散歩は事業所周辺を回り、歩くコースに自宅がある利用者もいます。岩見沢公園での動物との触れ合い、厚田の桜やメイプルロッジの紅葉見学など、春から秋にかけ毎月ドライブ外出に取り組み、行く先々では地元の特産や美味しいものを味わっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事はないのですが、本人が不安がある方は、ご家族と相談して見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望すれば、いつでも掛けられる様になっております。手紙も要望があれば支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには月ごとの季節や行事を連想させる壁面で飾りふも雰囲気を出す工夫をして楽しんで頂ける様な空間とする。	共用空間は全体的に明るく、リビングの大きな窓から外の景色が見渡せます。職員と利用者が一緒に制作した自然と食のモチーフの作品が2つ掲示されており、其々、季節感を感じます。ダイニングの席は、利用者の状態像により配置換えし落ち着いて過ごせるようにしています。エアコンやパネルヒーター、空調機器類で適切な温湿度を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、利用者様が集まりお話しされたりDVDを観たり楽しまれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・写真・カレンダー自作の飾り物などを貼り個別に居心地の良い空間作りを工夫している。	居室には、電動ベッド、クローゼット等の備え付けがあり、クッション性に優れた床材を使用しています。利便の良い家具類や利用者の大切な品々、調度品が持ち込まれ、家族写真や作品類が掲示されています。身体状況の変化に応じ、安心、安全に過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでクッションフロアで手摺を設置し安全に考慮しトイレも分かる様に張り紙をし照明も適度な明るさにし安心して過ごせる様にしている。		